

令和元年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

「みんなと一緒に楽しむ」 海辺からユニバーサル社会を目指す

茨城県大洗町 一般社団法人ユニバーサル・ビーチ協会

2020年東京オリンピック・パラリンピックを前にして、ようやく認知され始めた「ユニバーサル」という理念。一般的には未だに「心のバリアフリー」と言われているところであるが、私たちは「みんなと一緒に楽しむ」ことを「ユニバーサル」と定義し、その実現をテーマとしてきた。

日本初のユニバーサルビーチ

私たちの活動は大洗サーフ・ライフ・センター・クラブの活動の軌跡の上にある。1995年水陸両用車椅子を日本で初めて導入。障がいのある方や、高齢者が自由かつ安全、快適に活動できるよう、地域の方と一体となってユニバーサルビーチを整備してきた。2018年8月末には水陸両用車椅子利用者登録会員数

は1400名に及んでいる。

しかし、ユニバーサル活動の幅は、広大で全てを網羅するには限界があることも事実である。2009年から活動を通年とし、専門家や学術関係者などを加え、拡大編成し設立したのが、UBA（ユニバーサル・ビーチ協会）である。

震災を乗り越えて

2011年3月11日東日本大震災の際、大洗では4メートルを超える津波に見舞われている。町役場や海岸線にある施設、海岸監視に必要な備品倉庫などを、海に飲み込んでいった。その後、原発事故の風評被害も含め、海水浴客は著しく減少し、観光産業も大打撃を受けた。「がんばっぺ大洗」を合言葉に町も、復興に向け動き出す。津波防災対策の築堤や一時避難所となる

ビーチセンターの建設など、大規模な防災対策が行われることとなった。これを契機にユニバーサルをより積極的に発信しようという機運も生



まれた。2013年これまで不定期の勉強会を毎月定例のユニバーサルサロン(勉強会)とした。障がい者とその家族、大学生、地域住民、大洗町職員、茨城県職員、東京や周辺地域からの支援者、茨城大学教職員など参加者は各回40名に達する。

加えて政策提言が可能な体制を整え、不定期に研究会も開催。茨城大学を始めとする学識経験者も関わり、2014年には提言書をまとめ大洗町に提出した。提言には、「ユニバーサルビーチを存続するために、堤防Ⅱ壁ではなく、バリアフリー規準をクリアした築山の建設」「障がい者の一時避難所となるビーチセンターの建設」などが盛り込まれた。その後、2017年竣工された津波防災対策堤防およびユニバーサルビーチセンターは、この提案を核に計画がとりまとめられ施工されている。

学び、育つ

2015年2月ユニバーサルシンポジウムvol.1を開催。観光庁の後援もあり、ユニバーサルツーリズムを考える契機を設けた。2016年2月ユニバーサルシンポジウムvol.2開催に加え、学生の実行委員会を中心に「だれもが楽しめるユニバーサスポーツ」体験イベント「ユニスポWAVE2016」を企画、実施。

2017年6月には築山、ビーチセンター建

設を町民への周知を図りユニバーサルシンポジウムvol.3を開催。7月には2回目となるユニバーサル体験イベント「ユニスポWAVE2017」を開催した。実行委員には障がい当事者の大学生も加わり、高校生ボランティアの参加もあった。これらは学生と地域、行政の協働の実績でもあり、大洗発ユニバーサルを発信し続けている証でもある。

「みんなで一緒に楽しむ」インクルーシブな活動は、関わる大人だけでなく、ライフセーバー、地域活動やボランティアに関心のある高校生、大学生による地域参画事業を生んできた。学生にとっては、地域イベントの企画運営を通じて、



地域の方と深く関わる機会を得て、学びの契機となっている。受け入れてくださった「地域」である茨城県内への就職や定住促進にもつながっている。2018年からは、障がい者とその家族と一緒ににキャンペーン事業の立案実施を試みるなど子育ての浜の活動は広がっている。

法人化へ

2019年4月、平成最後に一般社団法人化した。これまでと同様、一周先を意識した取り組みこそが、私たちの法人の使命であり、フットワークの軽い柔らかな組織を目指す。

社会に必要とされているが、未だ手付かずの課題はたくさんある。毎月定例のユニバーサルサロンをはじめとして、海洋教育の実践、野外活動機器の開発、ユニバーサルに関する調査・研究、シンポジウム、政策提言、疑似障がい者体験、ユニバーサルツーリズム、ユニバーサスポーツ、リトリート(避難)、障がい者の就労支援などユニバーサル社会に近づくための取り組みを展開している。

ユニバーサル文化を発信

平等に、だれもが年をとる。高齢社会の成熟から今後は加齢に伴う、より多様なニーズも発生してることが予想される。総ての障がい者と、未来の障がい者である私たちが力を合わせ、だれもが自分らしく生き、幸せを感じることをできるユニバーサル社会に向かってあるき続ける。地道な一歩一歩が新たな価値を生むと信じて。「だれもが一緒に楽しむ」活動を継続し拡大していきたい。

(一般社団法人ユニバーサル・ビーチ協会

理事/機関長(事務局長) 井坂美子